

玉井 寿樹 TAMAI Toshiki

- **研究分野：**公共経済学を専門分野として，社会資本と経済成長に関する理論・実証研究を中心に研究をしています．最近では，民主主義的な政策決定過程と公債を財源とする公共投資の経済効果について研究を進めています．
- **ゼミ：**博士前期課程から後期課程まで幅広い年代の学生（2025年度はMC12名・DC4名の合計16名）と一緒に学んでいます．院生は教員と同じ研究テーマの他，少子高齢化，地域振興，教育，社会保障，所得格差などの様々なテーマについて理論・実証研究に取り組んでいます．

<https://tamaitoshiki.wixsite.com/mysite>

近年の主要論文：

- Social security, economic growth, and social welfare in an overlapping generation model with idiosyncratic TFP shock and heterogeneous workers, *Journal of Population Economics*, 36, 1829–1862 (2023).
- Unemployment, tax competition, and tax transfer policy, *Journal of Public Economic Theory*, 24, 470–503, (2022) Gareth Mylesとの共著
- Economic growth, equilibrium welfare, and public goods provision with intergenerational altruism, *European Journal of Political Economy*, 71, (2022).

Keywords: Public Investment, Infrastructure, Fiscal Competition, Education, Social Security, Debt Sustainability, Population Aging

大学院ゼミの目標 Our goal

研究能力の 修得・醸成

研究を進めていく上で重要な3つの能力をバランスよく修得し、また伸ばしていくことをゼミの目標としています。

1

分析能力：

ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に研究テーマに応じた公共経済分析の手法を修得します。

2

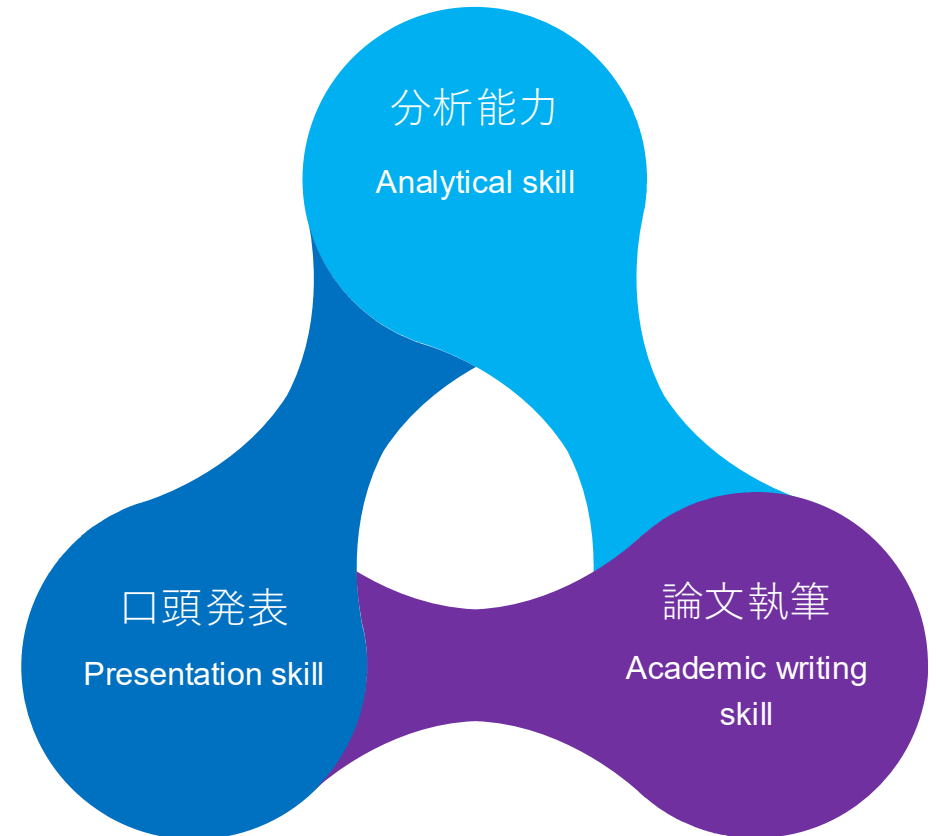
口頭発表：

多様なゼミ生が参加するゼミでの報告・議論を通じてプレゼンテーション能力を向上します。

3

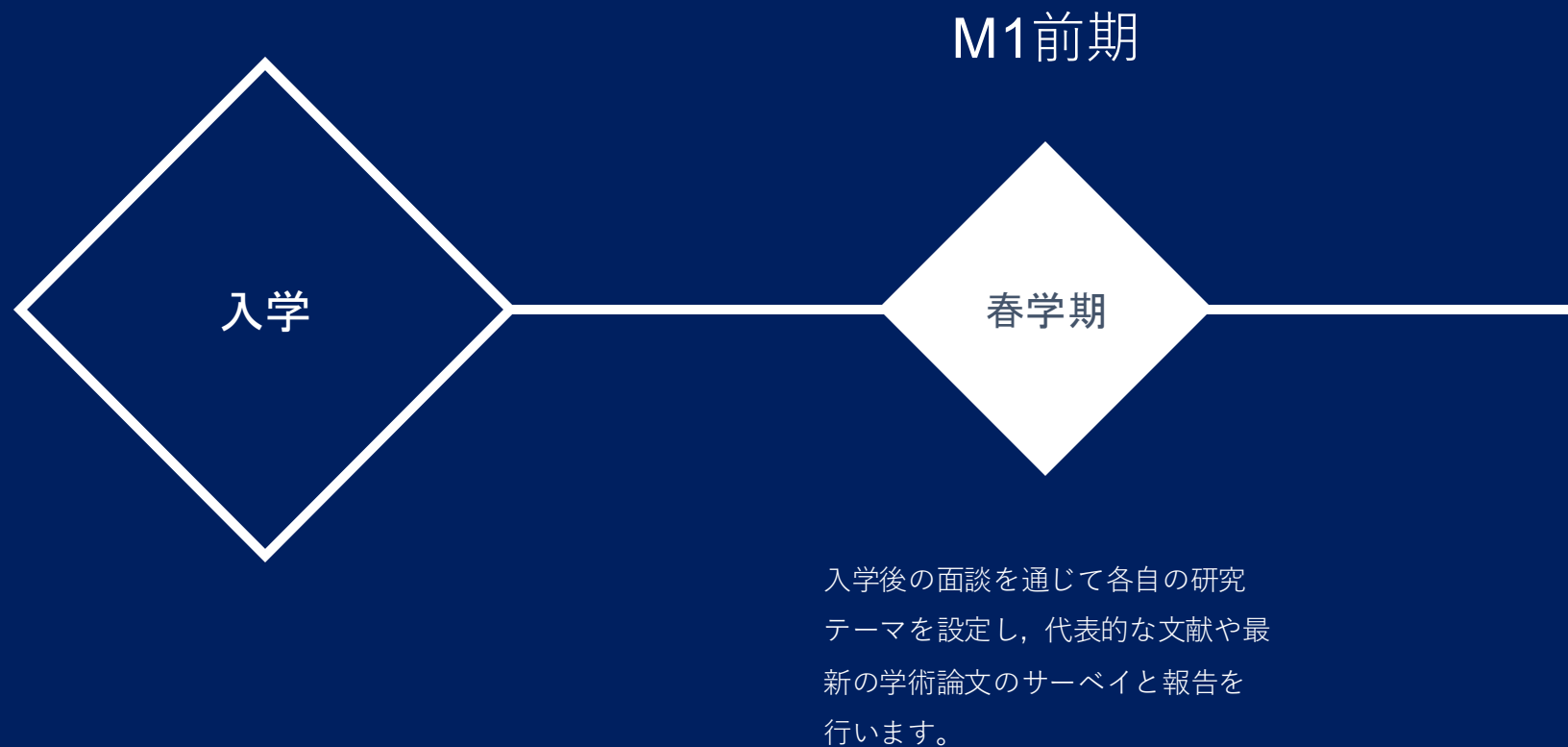
論文執筆：

ゼミ発表および教員による執筆・添削指導を通じて学術論文の書き方を学びます。



研究の流れ

前期課程では進学希望の有無等でテーマや指導方法を柔軟に変えて研究指導を行っています。それ以外の基本的な研究の進め方は同じです。全ての指導学生が参加したゼミとなっていることが特徴の一つです。



M1後期

秋学期

文献のサーベイを引き続き行うとともに修士論文の基礎となる先行研究の精査を進めて、修士論文の具体的な構想について検討します。

M2前期

春学期

修士論文の構想を固め、分析・研究を進めます。また、ゼミでの報告を通じて分析結果を精緻化し経済的解釈について検討します。

M2後期

秋学期

ゼミ報告や論文指導を通じて内容をブラッシュアップし修士論文の完成を目指します。



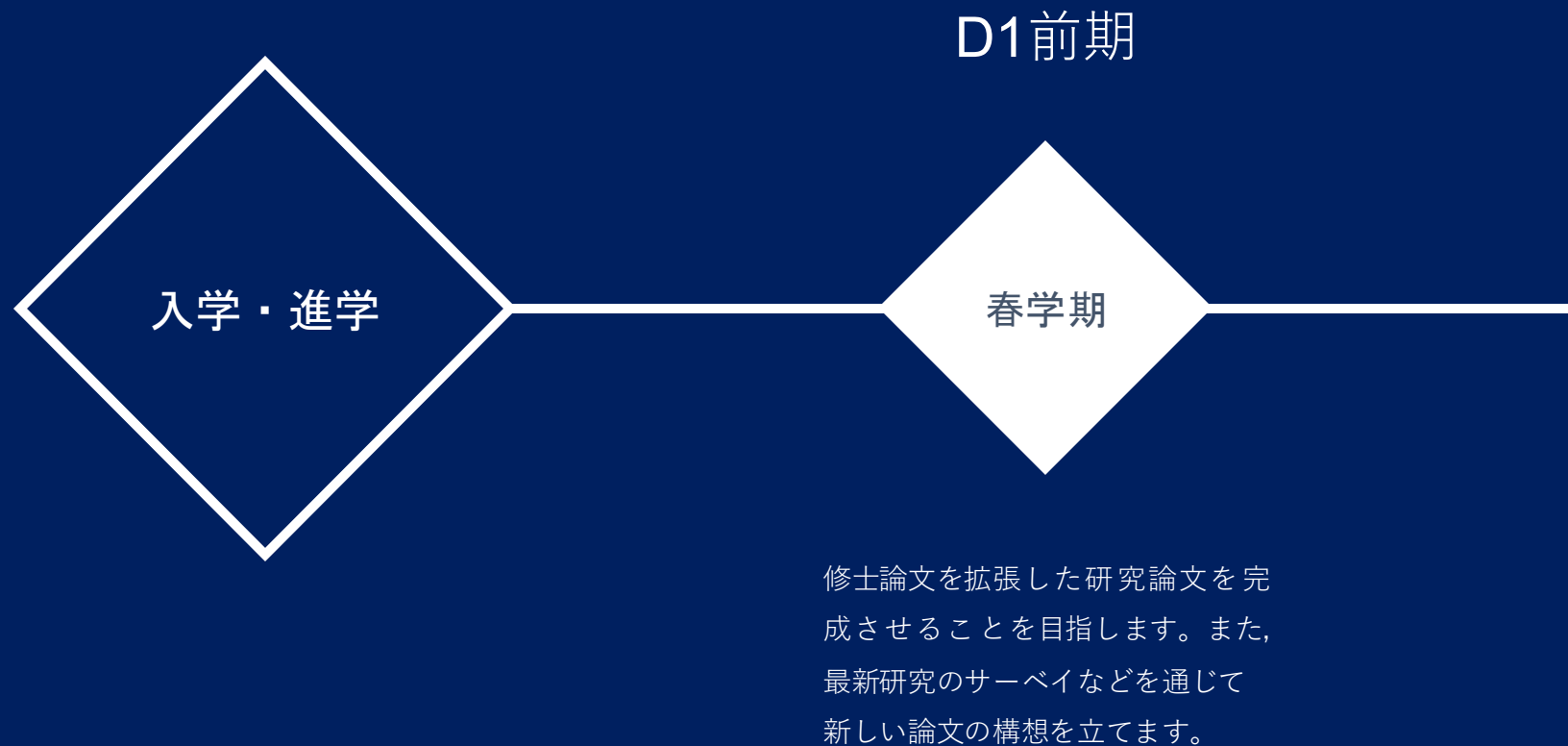
Master thesis

修士論文の例

- 財政競争への参加問題とトランスファー政策
- 世代重複モデルによる公共投資と公的教育投資の支出配分と経済成長の分析
- 東海地域における社会資本の生産力効果
- 不完全労働市場下での公共支出競争に関する理論分析
- 地方自治体におけるシティプロモーション施策の効率性に関する経済学的考察
- Government Intervention on Wildlife Damage Management: A Bioeconomic Analysis of Wildlife Damage Compensation and Taxation Policies
- Fiscal Shocks in a Two-Assets Real Business Cycle Model: A Simulation of the Guinean Economy
- Analyzing Mongolian Fiscal Sustainability under an Overlapping Generations Model
- The Effects of Unfunded Pension Reform on Economic Growth under Endogenous Retirement

研究の流れ

後期課程のゼミ生は自分の研究テーマを持った一人の研究者です。本人の意思を尊重し同じ研究者として博士論文の完成までサポートします。博士後期のゼミ生の多くは玉井ゼミだけでなく他の先生のゼミにも積極的に参加しています。



D1後期

秋学期

修士論文の拡張論文について学会報告・学術誌へ投稿などを行います。また、新規の研究も同時並行で進めていきます。

D2前期

春学期

新規研究を論文として完成させ、学会報告・学術誌への投稿を目指します。博士論文全体の構想についても意識をして研究計画を立てていきます。

D2後期

秋学期

前期に引き続き学会報告、学術誌への投稿、新規の研究の実施などを行います。第1次公開セミナー・博士論文執筆の準備も進めます。

D3前期

春学期

後期課程3年次は2年次と同様の流れです。これに加えて、博士論文執筆条件となる第1次公開セミナーの合格を目指します。

D3後期

秋学期

第2次公開セミナーの合格と博士論文の完成を目指します。

PD・就職

修了

学位取得後も互いに切磋琢磨しながら長く研究を続けてもらえることを期待しています！



Doctor thesis
Collaborations

博士学位論文 ・共同研究の例

博士学位論文の例：

- Capital Market Integration and Fiscal Competition
- 経済成長と所得分配に関する公共政策のマクロ経済分析

共同研究の例：

- Unemployment and Endogenous Choice on Tax Instruments in a Tax Competition Model: Unit Tax versus Ad Valorem Tax, *International Tax and Public Finance*, 31, 533-551, (2024)
- Tax Competition, Unemployment, and Intergovernmental Transfers, *International Tax and Public Finance*, 26, 899–918 (2019)

これまでの 修了者

コース	修了者	就職	進学	その他
前期課程	13	6	7	0
後期課程	3	2	-	1
社会人（前期課程）	3	-	-	-
5年一貫	0	-	-	-
高度専門人	0	-	-	-

2016年度～2024年度までの累計で前期課程13名および後期課程3名の修了者がいます。出身国は日本, 中国, ギニア, モンゴルなど多様なゼミ生を受け入れてきました。

博士学位 取得者

これまでに3名の博士学位取得者を輩出しています。いずれも国際・国内学術誌に査読付論文を公刊し、若手研究者対象の著名な研究賞を受賞しています。

- 菊池 悠矢 さん（2022年3月修了）：名古屋大学学術奨励賞
- 宮下 大輔 さん（2023年3月修了）：兼松賞（公益財団法人兼松貿易研究基金）
- セセ・シェリフ・デラムさん（2024年3月修了）：奨励賞（日本応用経済学会）

名古屋大学
経済学部

名古屋大学
大学院
経済学研究科

国際経済政策研究センター
Economic Research Center

アジア共創教育研究機構
Applied Social System Institute of Asia